

2 「山形大学周辺における暮らしの安心・安全に関するアンケート」調査の概要

阿部 晃 士

(社会システム専攻地域政策領域担当)

本稿では、「山形大学周辺における暮らしの安心・安全に関するアンケート」調査の概要について記す。

1. 調査対象

山形大学小白川キャンパスの周辺地域における安心・安全を考えるため、地域との関わりが深い、小学生の保護者を対象とした。具体的には、山形市立第一小学校、山形市立第五小学校、山形市立第八小学校の3つの小学校の保護者全員である。ただし、同じ学校に兄弟姉妹が通っている家庭では、重複を避けるため、学年が上の児童1名分について回答いただいた。

2. 調査票の設計

調査票は、主に以下の4つの内容から構成した。表紙（記入のお願いと記入上の注意）1ページを含めると、調査票全体でA4版9ページである。

- (1) 日常と災害時における、親族ネットワークと知人ネットワーク
- (2) 防災情報の入手と災害時の避難
- (3) 山形大学や山形大学の学生との関わり
- (4) 回答者自身の属性や家族に関すること

3. 調査の実施と回収状況

調査の実施方法は、自記式の配票調査である。具体的には、以下のように進めた。

- (1) 調査票と依頼状の2つを入れた封筒を、事前に確認したクラス人数分ずつにまとめ、各学校にお届けする。
- (2) 担任の先生より、クラスの児童全員に、封筒のまま配布する。児童は自宅に持ち帰る。
- (3) 保護者は調査票に記入し、封をする。児童が学校に持参する。
- (4) 開封せずに封筒のままクラスごとに集めたものを、そのまま校内でまとめていただき、研究会が受け取りにうかがう。

調査は2013年12月9日（月）から16日（月）にかけて実施した。調査票の配布数は754部で、回答をお寄せいただいた方は3校全体で649名となった（回収率86.1%）。小学校ごとの回答数は、第一小学校が174名、第五小学校が197名、第八小学校が278名である（表1）。

表1 回答者の性別（学校別、%）

性別	小学校			全体
	第一小学校	第五小学校	第八小学校	
男性	16.1	13.2	18.0	16.0
女性	82.8	83.8	81.3	82.4
無回答	1.1	3.0	0.7	1.5
合計	100.0	100.0	100.0	100.0
(%の基数)	(174)	(197)	(278)	(649)

表2 回答者の職業（従業上の地位，%）

自営業主（家族以外の雇用者なし）	3.0
自営業主（家族以外の雇用者あり）	1.8
家族従業者	2.9
経営者・重役・役員	2.2
常勤の勤め人（重役やパートなどは除く）	32.4
臨時雇用・パート・アルバイト	30.1
派遣社員，嘱託の従業員	1.6
その他	1.8
無職（専業主婦）	24.2
合計	100.0
（%の基数）	（624）

4. 回答者の属性

回答していただく方の性別は指定しなかったが、内訳は男性が16.0%（104名）、女性が82.4%（535名）、性別未記入が1.5%（10名）である（表1）。小学生の保護者であることから、年齢では30歳代と40歳代が多く、平均は40.5歳（27～59歳）である（表は省略）。

本人の職業（従業上の地位）では、「常勤の勤め人」（32.4%）、「臨時雇用・パート・アルバイト」（30.1%）、「専業主婦」（24.2%）の3つが多く、これらで全体の9割弱（86.7%）を占めている（表2，無回答を除いて集計）。

また、居住の経緯についての回答によると（表は省略）、「生まれたときからずっと山形市に住んでいる」（26.5%）、「子どもの頃に山形市に転入し、ずっと山形市に住んでいる」（4.4%）、「山形市で生まれ育ち、進学や就職などのため転出した後、戻ってきた」（17.1%）などの「山形市出身者」が48.0%、「進学や就職、転勤のため、初めて山形市に住むようになった」（23.7%）、「結婚して、初めて山形市に住むようになった」（21.5%）、「被災等による避難をきっかけに住むようになった」（3.6%）、「その他」（3.1%）などの「それ以外」が52.0%と、ほぼ半々になっている。山形市での居住年数は平均22年（2ヶ月～58年）である。